

まほら

2023. 12 No. 08

校内ビブリオバトル チャンプ本決まる！



11月28日のLHRに令和5年度校内ビブリオバトルがありました。代表の生徒と先生方の熱いバトルが繰り広げられ、どの本も『面白そう！』『読んでみたい！』と思いました。

今回のチャンプ本は、1年1組前畠雄青さんが紹介した『**あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。**』でした。皆さんはもう読んでみましたか。まだ読んでない人は、ぜひ、まほら館で借りて読んでみてはいかがでしょうか？

その他の紹介された3冊についても、この機会に手に取ってみてください。



あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。

汐見夏衛（著） スターツ出版文庫

1945年夏。終戦間際の日本にタイムスリップした中学生の百合は、偶然助けてくれた特攻隊員の彰に徐々に惹かれていきます。

「平和な時代に生まれて良かった」と思うような彰の決断や、作中の描写は小説を普段読まない人にも戦争の悲惨さや切なさが伝わる作品です。

冬休みがやってきます

図書館内では今、クリスマスに合わせた飾り付けをしています。

見に行くついでに、まだ、本を借りてない人は借りにきてください。

12月28日まで、**1人10冊**借りることができます！



星ひとみの天星術

星ひとみ（著） 幻冬舎
誕生日で運命が分かる！？

話題の占い師・星ひとみさんがあみだした「天星術」で、自分や友達、気になる人の誕生日を聞いて運勢を占ってみませんか？

生命の星の条件を探る

阿部豊（著） 文藝春秋
地球外生命体の存在に関して科学的に考察する本です。

あなたは宇宙人がいると思いますか？

また同じ夢を見ていた

住野よる（著） 双葉社
このタイトルの意味がわかる時、声を出さずにはいられない。幸せを見つける物語。

「まほら」11月号に引き続き、10月に行った「新書を読もう旬間」の感想を紹介します。

読書力 / 斎藤 孝著 (岩波新書)



読書への熱い思いが語られていて納得できる場所があった。読書について書かれてあり、**本を読むことの意味、案外答えにくい問いに「読書によって…の力がつく」という形で答えていきます。**さらに、鍛え、広げること、読書との関わりなどを示しています。

この本を読んでみて、あらためて読書の本質を考えさせられた1冊となりました。

ぞわぞわした生きものたち / 金子 隆一著 (サイエンス・アイ新書)



ムカデやクモなど身近な生きものから「～系」で昔の生きものや祖先などが書かれた本で、たくさんの生きものを知った。同じ「～系」じゃなくても似ているやつがいたり、「…おもかげはある」という同じ「～系」だったりして色々と深かった。多足生物とかだったので「**やはりこいつらは気持ち悪いなアッハッハッ**」と思いながら楽しく読めた。

戦争と沖縄 / 池宮城 秀意著 (岩波ジュニア新書)



戦争を後世に伝えるということを大事にしているはずなのに、最近ではドラマや映画などが夏になっても放送されることが少なくなっている今、この新書は**生々しい部分まで戦争での体験や出来事を書いていて、とても考えさせられました。**想像することも難しい内容もたくさんありました。

医と人間 / 井村 裕夫著 (岩波新書)



私は「医と人間」という新書を読んで、その本の中の「ホスピスと緩和ケア」について述べているところで、ホスピスには治療が望めない終末期を迎えた患者さんが多くいらっしゃり、患者さんから「はやく死にたい」「つらいから早く終わりにしたい」などをいわれた看護師さんの言葉に影響を受けました。私は将来看護師になりたいと思いますが、**この本を読んでなかったら患者さんを傷つけていたかも**しれません。

新書には、小説とはまた違った面白さや読みやすさがあります。知識を増やすために読むのもアリだし、楽しみとして読むのもアリ。まほら館には今回紹介した新書以外にもまだまだたくさんあります。



錦江湾高校推薦図書 2023



『錦江湾高校推薦図書』とは、先生方が選ぶ高校生のみなさんに読んでほしい本です。
今年度も、『錦江湾高校推薦図書』を先生方の紹介文とともにまほら館にて展示しています。
先生方が紹介された様々なジャンルの本をぜひこの機会に手に取ってみませんか？



地歴公民科 原田先生

科学のふしぎ 366

著者 左巻 健男
出版社 きずな出版



自分の身のまわりには気づけば「おもしろいこと」がたくさんあります。しかし、気づくためには、訓練が必要な気がします。その参考になる気がするので紹介します。

日常生活の中でふとした瞬間に「えっ、どうということ？」という疑問、「あっ、なるほどね」という合点の気づき。

気づいて考え、行動（挑戦）して毎日を楽しもう！



理科 難波先生

沈黙の春

著者 レイチェル・カーソン
訳 青樹 築一
出版社 新潮社



農業問題を提起したこの本は、1962年に出版され世界的な論争を巻き起こしたものでありましたが、さまざまな視点から問題が指摘されており、現代においても自然保護や化学薬品による公害を考える際に大いに参考になる本だと思います。輸入農作物や加工品が増えてきている昨今、なかなか生産者が見えないものに対して自ら完全性を確かめる時期になっていると思います。



実習助手 藤野先生

人は話し方が9割

人は聞き方が9割

著者 永松 茂久
出版社 すばる舎

同じ作者が書いています。
あなたは、どちらだと思いますか？



英語科 吉井先生

最後だとわかっていたら

作 ノーマ コーネット マレック
訳 佐川 睦
出版社 サンクチュアリ出版



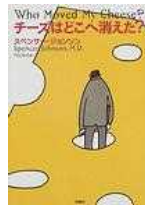
9.11同時多発テロのあと話題となり、世界中が涙した感動の詩です。
恋人を、兄弟を、親を…大切な人を想いながらこの詩を読んでください。



保健体育科 山下先生

チーズはどこへ消えた？

著者 スペンサー・ジョンソン
訳 門田 美玲
出版社 扶桑社



すすめたいポイントは3つ!!

- 1 1時間前後で読める
- 2 全世界で読み継がれている
- 3 変化の多い現代社会で役立つこと間違いなし◎

#コスパ最強 #優柔不断なあなたへ



書道 木佐木先生

三千円の使いかた

著者 原田 ひ香
出版社 中央公論新社



人生の節目やピンチを乗り越えるために、お金をどう使っていくのかを描いた家族の物語です。

お小遣いやお年玉、将来社会人になって給料をもらった時のよりよいお金の使い方が学べる本なので、ぜひ、読んでみてください。



美術 茂山先生

校則なくした中学校

たったひとつの校長ルール

著者 西郷 孝彦
出版社 小学館



教職について 40 年以上経ちますが、いまだに覚悟ができていないと思う事が多く、反省しきりです。著者の校長先生のような、自己保身ではない覚悟が持てたらと願って止みません。まだまだ修行の身だと実感してます。

教職員だけでなく、保護者や生徒にも読んでもらいたい一冊。

錦江湾高校推薦図書の紹介は最終回となりました。

これまで紹介してきた本を含め、先生方が読んで「面白いからぜひ読んで!」と思っている本なので、この冬借りて読んでみませんか?



冬休みの貸出

期間 12/11~12/28

貸出冊数 1人10冊まで

返却日 1月9日(火)